



第4回（社）日本アタッチメント育児協会 全国大会 報告書

アタッチメントを伝えたい。

- でもそれって伝わるの？
- その答えを探しに来ませんか！



主宰：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会
後援：学校法人 大乘淑徳学園 淑徳大学短期大学部
協力：うまれるパートナーズ LLP
株式会社ハッピーチャイルド

第4回(社)日本アタッチメント育児協会 全国大会

アタッチメントを伝えたい。

- でもそれって伝わるの？
- その答えを探しに来ませんか！

主宰：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会
後援：学校法人 大乘淑徳学園 淑徳大学短期大学部
協力：うまれるパートナーズLLP
株式会社ハッピーチャイルド

■ はじめに

2013年の年末を締めくくった第4回 全国大会、テーマは・・・

アタッチメントを伝えたい。

- でもそれって伝わるの？
- その答えを探しに来ませんか！

日ごろから「育児の専門家」として、お母さんにアタッチメントを伝えるわれわれ育児セラピストにとって、いつでもこのテーマにある「それって伝わるの？」という命題が頭をよぎるのではないのでしょうか。ベビーマッサージをはじめとする「日常の営み」を通して伝えたり、茶飲み話や育児相談の中で伝えたり、自分が接する親たちに、さまざまな形を試みます。その中で「本当に伝わっているのかな？」「私は、何かしら役に立てているのだろうか？」そんな風に迷ったりすることもあると思います。

私は、このような「迷い」は、非常に重要であり、価値の高いことだと考えています。この迷いこそが、「内省(自らの行動や言動を省みる行為)」を生み、内省は、われわれ自身の成長を促し、また周りの人との関係性を良くします。今回のテーマの中の「その答え」とは、まさにこのことに気付くことであると、私は考えます。それは、目の前のお母さんやお父さんたちに、様々な形でアタッチメントを伝えて、感じてもらうことを地道に続けていくこと、と言い換えても良いのかもしれない。

この全国大会の役割は、同じ志、同じ問題意識をもった皆さんが一堂に会し、刺激し合い、学び合い、高め合い、つながり合い、そして楽しみ癒しあうことだと考えています。そのための「場」が、この全国大会です。

様々な事情で全国大会に来られなかった方々、そして、これから参加される方々と、ここで生まれた「価値」を共有し、少しでも会場の臨場感をお伝えしたいという思いを込めて、この報告書を編纂いたしました。また、今回ご参加いただいた方々にとっては、全国大会の回想録として、ここでの刺激、ここでの学び、ここでの楽しみ、ここでの癒しを再現するきっかけとしていただきたいと思います。

(社)日本アタッチメント育児協会
代表理事 廣島 大三



アタッチメント・ミーティング

attachment meeting

映画「うまれる」

監督 豪田 トモ氏 トークセッション



今回の全国大会では、初の試みとして、前日に映画の上映会を開催しました。その映画は、全国各地で上映会が開催され、話題を呼んでいる映画「うまれる」です。妊娠・出産・育児、流産・死産、不妊、障がいなど「うまれる」というテーマを、様々な角度で取り上げたドキュメンタリー作品です。

二日目のアタッチメント・ミーティングの幕開けは、映画「うまれる」を企画し監督を務められた豪田トモさんのトークセッションでした。

豪田さん自身も、子育てに積極参加する育メンでもあるので、「うまれる」の映画監督として、パパとして、夫として、どんな話が飛び出すのか、大いに興味を持っておりました。最初は、自己紹介から豪田さんの「育児論」の話で幕を開けました。

「育児・育自・育侍」

育児とは、父親としての自分が成長し、男としての自分の中の侍が開花することだ、という父親観を持っていると言います。また、子育てにおける夫の役割は、「妻のサポート」であるとの考えの基、独自の TEL 法について語ってくれました。

1. Together (いっしょにやって)
2. Express (口に出して表現して、伝えて)
3. Listen (話を聞いて)

この3つの頭文字をとって、TEL 法と呼んでいるそうです。これが、夫婦円満の秘訣であり、夫婦仲が悪くなった時の特効薬だと言います。この考えには、私自身もまったく共感した次第です。こうした彼の育児論は、まさに彼の人となりを垣間見ることの出来る話でした。



そして、話は、いよいよ映画の話に入っていました。いざ始まってみると、話は思わぬ展開に・・・！

それは、豪田監督が今回の「うまれる」という映画を撮るきっかけの話に入った時でした。私は、実は「自分も父親になってみて、子どもの誕生に興味を持った」というような動機を期待していました。しかし、彼の映画を撮る動機付けは、そうしたものではありませんでした。この映画を撮ろうと思った動機は、彼が「自分の親子関係を何とかしたかった」からだと言います。

監督には、体の弱い弟さんがいて、小さいころからご両親の注意の大半が、その弟さんに向けられていて、監督は幼いころ「親に愛された記憶がなかった」そうです。そして、それは「自分が悪いからなのか？」と葛藤したそうです。大人になってからも、自分がこのような親子関係のもとに生まれてきた意味を見いだせずにいた中で、35歳の時に「このことと、きちんと向き合ってみよう。そして、自分がこの世に生まれてきた責任を果たそう」と思い立ったそうです。映画「うまれる」のテーマは、子どもが生まれた親たちの中に、自分の両親の姿を見ることで、自分の親子関係に新たな解釈を加えようという監督自身の思いが込められていたのです。

私は、この話を聞いて、映画「うまれる」という作品の奥深さの理由がわかった気がしました。自らが虐待を経験していたり、障がいを持って生まれてきた子を授かったり、死産を経験したり、と様々な形で親になった人たちの真実のドラマを通して、監督はこんな考えに至ったそうです。

「愛されていないと思っていたのは、自分が生みだした幻想だった」そして、実家に行ったときに、親御さんに伝えたそうです。「生んでくれて、ありがとう」

その後、映画が完成し、監督は試写会にご両親を招待したそうです。そして、試写会の終わりに、監督のお父さんが壇上に歩み寄ってきて、涙を浮かべながら言ったそうです。

「この映画を作ったのは、私の自慢の息子です」

この言葉をもらうのに、30年以上かかったけど、私の親子関係の修復は果たされました。と締めくくり、豪田トモ監督のトークセッションは、幕を閉じました。



最後に、豪田監督が、映画「うまれる」を通して伝えたかったのは、「親は、子どもを愛している、そして、愛し続ける覚悟をもっている」という事実だったのではないかと、私は感じながら、トークの後に残る余韻を楽しんでいました。

（この記事は、私自身の記憶とメモに基づいて書いておりますことをご容赦ください。 文責：廣島 大三）

パネルディスカッション

「良い親」って何？ 「悪い親」って何？

今回は「良い親」って何？「悪い親」って何？を大きなテーマとして、下記の4つをキーワードとして、様々な立場の方に意見をお伺いしました。

■ キーワード

- ① 毒親
- ② モンスターペアレント
- ③ 幼児教育の是非
- ④ 親子の距離感

■ パネリスト



こうだ トモ
映画『うまれる』
企画・監督・撮影



いぬい ひろあき
ミキハウス子育て総研
主任研究員



ほそい かおり
東京家政大学
子ども学部子ども支援学科
准教授、医学博士



さわだ かよ
日本福祉大学 キャンパス
ソーシャルワーカー



ひろしま だいごう
日本アタッチメント
育児協会 代表理事

◆ ファシリテーター ◆

キーワード 1

毒親

この毒親というキーワードは、まず言葉の定義を共有することから始まった。ここでは毒親を、子どもの社会適応や人格形成に障がいを与えるレベルと定義しておきたい。

そもそも、どんな親も「毒」は持っている。「毒親チェックリスト」なるものがあるが、それを見ると、どの項目も多かれ少なかれ自分に当てはまる部分を、みなさんだっけと見つけることができるだろう。そうした誰にもある「毒」が、「過剰に」表面化すれば、毒親となってしまうかもしれない。そして厄介なことに、親自身は、自分を毒親とは思っていないことが多い。一生懸命子育てをしてきた結果として、知らないうちに毒親になってしまっているケースも多い。これについて、まずはキャンパスソーシャルワーカーの澤田さんに具体例をきいてみた。

「大学生の事例では、対人関係がうまく築けないある学生のことが浮かぶ。その学生の家庭環境は、姉に障害があり、小さい頃からお母さんは姉にばかりかかりきりだったので、その学生は放っておかれ、自分は愛されていないんじゃないかと思いながら過ごしてきた。実際にこの学生に対しては、ネグレクトに近い養育態度になっており、これは立派な毒親と言える。しかし母親本人は姉の世話に追われる中、一生懸命子育て

をしてきている自負があり、毒親である自覚はない。今は母親に、その学生との親子関係を見直してもらうようお願いしているが、なかなかその必要性に気付いてもらえない。」

映画「うまれる」監督の豪田さんは、この事例について、「毒親と呼ばれるその人自身が愛情が満たされていない場合も多い」と指摘した。確かに、事例の母親の立場になってみれば、誰の助けも得られず、誰からも認められず孤軍奮闘していた様子が伺える。もし、父親が協力的で、妻の労をねぎらうような人だったら、あるいは、外部のサポートによって、母親が精神的に満たされる機会が得られていたら、その学生がネグレクト状態にされることはなかったかもしれないし、母親も毒親ではなかったかもしれない。様々な要因が折り重なって毒親とそれに翻弄される子どもの構図ができているのであろう。毒親が毒親になった事情に目を向けることで、見えなかったものが見えてくる。そうして、母親の事情と子どもの事情の両方をすり合わせていくことが、「親子関係の見直し」として有効なアプローチなのかもしれない。

キーワード 2

モンスターペアレント

保育士や学校の先生にとって、一番の悩みの種であるモンスターペアレント。まずは、前提として、ここで問題にするモンスターペアレントというのは、特定の〇〇さんではなく、普通の親があるきっかけでモンスターになってしまうケースとした。実際の悩みの種は、まさにここにある。この問題について、大学の保育士養成の立場から、東京家政大学の細井准教授に聞いてみた。

「半年ほど保育士をしているが辞めたがっている元生徒に話を聞いてみると、理由の一つとして挙げたのが「モンスターペアレント」。しかしよく話を聞いてみると、保護者がわが子を大切に思うあまりに、保育士に要望を伝えていることが多いようだ。保護者の気持ちを大切に受け止めて、不安をなくして、疑いを生まないようにしてあげることが大切。つまりは、保護者の発言に対する保育士の受け止め方が、その親をモンスターペアレントにするかしないかを決める。お母さんが子育てをがんばっていることを認めてあげなくてははいけない。」

確かに、保育士への要望が、時に過剰になってしまい、保育士からみるとモンスターペアレントに映ってしまうケースは多そうだ。言葉としては、無理難題を吹っかけているようでも、実際には、無理な要望を実現してもらいたいのではなく、自分たちの不安な気持ちや子どもへの心配

を理解してもらいたいだけなのだ。

自分の気持ちを認めてもらえれば、親がモンスター化する余地はない。モンスター化していないので、理屈が通用する。その上で、本当に言わなければいけないことを伝えることができる。つまり、最初の反応が、その後の話を方向付けるのだ。

では、モンスター化してしまったら、どうすればいいのだろう。これについて、ママコミュニティを運営するミキハウス子育て総研の乾さんに聞いてみた。

「職業柄、様々な方と接する機会が多いが、中には何かにつけて無理難題を通そうとする方もいらっしゃる。そのようなタイプの方と遭遇した場合には、相手をする人を変えてみたり、話す場所や環境を変えてみると解決する場合もある。また、周りの人に相談するのもよいだろう。」



幼児教育の是非

ここでは、子どもの成長とは切っても切れない本質的に必要な幼児期の教育ということを前提として、何が是で何が非なのかを話し合った。

「必要以上に子どもらしくないことを教えることはよくないのではないか。」と乾さん。

細井准教授は、こんな見方をしている。「幼児教育は国も定義している通り、必ず必要なこと。『是』の幼児教育としては、幼少期に経験すべきことを経験させることや、見守る姿勢が大切。過保護、過干渉になってはいけない。また、子どもが自由な時間が無くなるくらいやってはいけない。習い事は子どもの要求に即しているかどうかが大切で、ベビーマッサージ教室は親の幸せも育むことができ、子どももお母さんと一緒に楽しく時間を過ごせるので、習い事としてすばらしい。」

総括すると、「何に」取り組むかよりも、「どう」取り組むかが、幼児教育の良し悪しを決めるのではないだろうか。

実際、幼児期に必要な幼児教育は、日常の営みの中にたくさんあふれている。そして、何に取り組めばよいのかは、子ども自身が知っている。だからこそ、モンテッソーリは、遊びの自由を子どもに保証していた。大人は、褒めたり、一緒に楽しんだり、見守ったりするだけ、それこそが「良い」幼児教育と言えるのではないだろうか。

しかし、それらにも「過剰さ」が加われば、たちまち「悪い」幼児教育になってしまう。教育の名のもとに過剰に干渉し、コントロールしてしまえば、教育どころか、心にキズを植え付けることにしかならない。つまり、幼児教育の是非は、それに取り組む大人にかかっているのではないだろうか。



親子の距離感

前のキーワードである「幼児教育の是非」でも「見守る」ことが大切だというご意見もあったが、どの程度の距離で見守ったらよいのか、よくわからない親も多い。近すぎても遠すぎてもよくない親子の距離感。ちょうどよい距離感を取るためにはどうしたらよいのだろうか。

前出のキャンパスソーシャルワーカーの澤田さんに、事例を話していただいた。

「大学生にもなると親子の距離は離れて、自立する子が多い。そんな中、子どもを頼って下宿先に家出してくる母親もいる。このように物理的距離は離れていても精神的距離が離れることができていないケースがよくある。このような学生に共通しているのは、お母さんに愛されたい願望が強く、お母さんに気に入られなくては!という想いを強く持っていること。だから家出してくる母親を受け入れてしまう。母親は母親で、辛いことがあると子どもを頼ってしまう。」

この事例では、本当はべったりくっついていたい乳幼児期に、親子の距離をとってしまったために、まっとうな親子関係が形成されず、「子どもに寄り掛かる親と、もたれかかられることで愛されようとする子ども」といういびつな親子関係が出来上がってしまっている。

親子関係には、年齢による距離というものがあり、関わり方は、子どもの成長と共に変化していく。子どもが小さいうちは、物理的にも、心理的にも、距離は近い関係が望ましい。そして、少しずつ成長していくと、親子は物理的には離れ、心理的なつながりに移行する。やがて、自立する年齢に向かう頃には、心理的なつながりにも距離が出てきて、親を頼りにしなくなる。これが、まっとうな親子関係だ。しかし、この距離の取り方を間違ってしまうと、親も子どもも、まっとうな関係は作れない。それでも、小さいうちは、容易に修復できるのだから、親子のちょうど良い「距離感」を伝えていきたいものだ。

(文責: 廣島 大三)



今回は『「良い親」って何? 「悪い親」って何?』について、パネルディスカッションを行いました。その中で答えのヒントが多く出てきました。ポイントは過度になりすぎないことで、「良すぎる親」にも「悪すぎる親」にもならないことです。親を支援する立場の私たちには、すぐに行うべき課題が多く見つかったと思います。支援する立場でないとできないことばかりだと思いますので、是非、このパネルディスカッションを参考にしていただいて、明日からのご活動にお役立てください。

ランチパーティー

受講生同士の交流や情報交換のためのランチパーティーを行いました。今回の全国大会もうれしいことに、北海道から九州まで日本全国からご参加いただき、このランチパーティーでは地域ごとにテーブル分けをさせていただきました。同じ地域でテーブル分けをしているのは、お住まいが近い人が集まることで情報交換だけでなく、今後も地域でのつながりを持っていただきたいという想いからです。

講座を一緒に受講した同期や教わった講師と再会を喜び合ったり、受講後の活動について近況報告をしている方もいらっしゃいました。

保育士や看護師、支援センター勤務の方や医療関係など様々な職種の方にご参加いただいたので、「多様な職業や立場の方と様々な意見交換ができてよかった」との声もいただきました。また、「日頃、一人で考えてもわからなかったことも話せて答えが見つかった」との感想もいただき、同じ想いを持つ同志が集まったときの素晴らしい力を感じました。

(文責：伊藤 瑛美)



担当講師との再会



同じ地域の仲間同士、共通の話題で共感



新しい仲間との出会い



ランチが会話のきっかけに



2013 年 優秀実践発表会

今年も、全国の当協会認定インストラクター及び育児セラピストの皆様から、活動の実践報告を募りました。その中から、特に象徴的で皆さんと共有したい活動をされている方を優秀実践者として4名選出し、全国大会で表彰させていただき、実践内容の発表会を行いました。

- … ABMアタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター
- … 育児セラピスト2級
- … 育児セラピスト1級
- … アタッチメント・ヨガ (for マタニティ&ベビー) インストラクター
- … アタッチメント・食育 インストラクター
- … AKMアタッチメント・キッズマッサージ インストラクター
- … AGMアタッチメント・ジム インストラクター

アタッチメント教室部門



瀧川 亜希子さま 看護教員（兵庫県）

取得資格



「参加者が1人であっても、アタッチメントを伝えるために教室を開き続けてきた強い思い」

瀧川さんは、現在、兵庫県尼崎市内の病院で看護教員をされながら、お休みの日に、マンションの集会室等で、働くお母さんたちを対象とした教室「ベビーマッサージ教室 グランマーム」を開催されています。働きながら育児をされた経験を踏まえ、主に働くお母さんたちを対象にアタッチメント・ベビーマッサージを伝えていらっしゃいます。時間が限られているお母さんたちのために、お母さんに時間を合わせた個人のレッスンや、短期間で習得できるプログラムなども組み、需要にあわせ、一人ひとりを大切に教室をされています。また、お母さんたちのストレス発散の機会となるよう、ティータイムも設けて、悩みなどを話せる場を提供されています。看護教員という職業から、育児やお子さんの発達についての質問も多いそうです。看護教員であり、更に働きながら育児をした経験を持つ彼女からは、持っている知識と経験を踏まえたアドバイスが得られるため、お母さんたちにとって、大変心強い存在なのではないでしょうか。

教室を開かれて3年目の彼女ですが、最初は誰も来ない日や、参加者が1人のときもあったそうです。しかし、1人でも多くの方にアタッチメントの大切さを伝え、喜んでほしいという思いで、1人であっても教室を開き、ベビーマッサージを伝えてこられました。その強い思いがあったからこそ、今まで3年間、続けてこられたのだと思います。

彼女の実践例は、教室をはじめたばかりの方や、これから教室をはじめの方にとって、大変心強いものでした。最初は誰も来ない日もあるかもしれない、それでも伝えたい思いを1人でも多くの方に伝えようと長い間教室を続けてこられている彼女の教室のように、温かい教室が増えれば嬉しいです。

保育・幼児教育部門



シャムレツフェル 公子さま インターナショナルプリスクール経営（埼玉県）

取得資格



「理論と実際の体験を通して、なぜ食育が必要なのかを伝える」

シャムレツフェルさんは、埼玉県深谷市にある英語保育園「Twinkle Kids International Preschool」を営んでいます。彼女は毎日の食事の大切さや、安全・安心な食の情報などをもっと保育者に伝えるべきだと考え、園でアタッチメント・食育に取り組まれています。

園児の年齢は2～6歳で、食に対する好奇心を育む時期にあたります。それを踏まえ、彼女は、園でいろいろな食事のシーンを体験できる機会を設けています。例えば月に1回、七夕などのような、日本の文化を感じながら、食の楽しみや喜びを感じることが出来る「行事食」を実施されたり、食への感謝と収穫の喜びを知るために、子どもたちとミニトマトなどの野菜を園庭で栽培したり、更にお雛様やお茶会を通してマナーについて学ぶ機会も作られています。話を伝えることや見せることも大切ですが、何よりも体験することが一番大切だと考え、このように、家庭ではなかなか体験できないことを、保育園で実施されています。

彼女の素晴らしいところは、このような体験を子どもにただやらせるだけではなく、「それを行うことがなぜ必要なのか？」という理論を、保育者やお母さんに伝えているところです。毎月行う行事食や、栽培した野菜を食べる際には、その意味や理論について、保育者やお母さんにしっかりと説明します。また、園のブログでも紹介したり、ホームページには保護者向けのページを設け、そこでも食について伝えています。

食について知識を持っているということは、子育てをする中でとても重要なことです。アタッチメント・食育インストラクターはまだまだ新しい資格ですが、子どもたちに楽しんでもらいつつ、子どもやお母さん、保育者にアタッチメントと食の大切さを伝える、彼女のようなインストラクターが増えれば、私も嬉しく思います。

医療・看護部門



鎌村 邦子さま 助産師（岐阜県）

取得資格



「地域性を活かした、型にとらわれない子育て支援への取り組み」

鎌村さんは、当協会を取得した資格と助産師をしていた経験を活かし、お住まいの岐阜県飛騨市で『かまむら母乳育児相談室』の経営と、市と連携したベビーマッサージ教室を開催し、地域の子育て中のお母さんたちを支えられています。

彼女は、型にとらわれることなく独自のやり方でベビーマッサージ教室を展開されています。例えば、赤ちゃんだけでなく、母乳育児卒乳後の1歳から2歳半くらいの子どもも「アタッチメント」を育む大切な時期であると考え、お母さんにベビーマッサージを指導されています。2歳だからといってキッズマッサージに移行しなければいけないわけではありません。年齢にとらわれることなく、ベビーマッサージを2歳の子にもする、という柔軟な発想が彼女の素晴らしいところです。

また、集客方法も一味違い、教室の宣伝に「無線放送」を使用されています。無線放送は圏内にいれば耳に入ってきますので、かなり多くの人に認識して頂くことができるツールです。彼女の住む地域ならではのものではありませんが、その地域性を活かしてご活動されています。

市で開催された教室の際は、ベビーマッサージの他に育児相談を受けています。お茶会をしながら全員で意見を共有し、意見交換されているそうです。助産師をされていた鎌村さんに相談できる場所や機会があることは、お母さんたちにとって大変心強いことです。彼女の教室に来ることでベビーマッサージが教えてもらえるだけでなく、悩みを聞いてもらうことができ、さらに鎌村さんから正しい育児知識を得られ、そして同じ悩みをもつお母さんたちと話す場も得ることができて、同じくらいの年齢の子どもをもつお母さんたちの繋がりも生まれます。このように、彼女の開催する教室は、地域の子育て支援のハブとして機能しています。彼女の事例は、地域と連携して活動していきたい方にとって、非常に参考になると思います。

子育て支援部門



小倉 輝久さま 川崎市中央療育センター 療育センター通園部長（神奈川県）

取得資格



「障がいのある子どもたちとお母さんのアタッチメントを育むベビーマッサージ」

小倉輝久さんは、男性で初の優秀実践者です。彼は、神奈川県川崎市の中央療育センターにて園長をされています。療育センターは、発達に支援を必要とする子どもたちとその家族に、適切な訓練や療育などの援助を行っている施設です。医師や看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、様々な専門スタッフの方が勤務されており、診療や訓練もふくめて子どもの発達に関わる、あらゆる専門家の目線で子どもたちの成長を評価し、お母さんが子育てしてきた時間を尊重し肯定的に考え、不安な気持ちをしっかりと受け止めて、話せる関係をつくり、お子さんには発達段階や特徴を踏まえた個別支援計画に基づいた発達支援を行っています。

彼の発表は、発達障害支援のアプローチの可能性を、つきつめている点が印象的でした。彼は、療育センターにベビーマッサージを取り入れ、発達支援のひとつの可能性としてのベビーマッサージに挑戦されています。ベビーマッサージによる体の接触を通しアタッチメントを育むことで、言葉を越えたコミュニケーションをとることが出来、そこから相手のことが考えられるという気持ちが芽生え、集団行動や協調性に繋がれば、それは大変素晴らしいことです。

また、彼はベビーマッサージのみならず、AKM アタッチメント・キッズマッサージ、AGM アタッチメント・ジムインストラクターや育児セラピスト1級も取得されており、発達心理学やアタッチメントについて詳しいところまで知った上で独自の支援プログラムを組み、育児支援に取り組まれています。彼の発表を聞き、未来の発達支援の希望と可能性を感じました。現在、療育センターでのベビーマッサージの取り組みは準備段階とのことですが、どのように取り入れていかれるのか、とても興味深く、今後のご活躍を私どもも大変楽しみにしております。

（文責：今井 香保理）



実践活動報告のご紹介

峰 孝子 さま ベビーマッサージインストラクター（東京都）

取得資格



**「ママに輝ける場を提供しながら、
アタッチメントの重要性を感じていただく場を提供したい」**

子育て支援センター・助産院などのイベントとして、ベビースリングやアタッチメント・ベビーマッサージ講習会を行い、子育て真っ最中のママ達とのふれあい活動を楽しんでいます。最近、アタッチメントの要素とヨガの要素を取り入れた、ママが主役になれるイベント「赤ちゃん抱っこしてシェイプアップ」にも取り組んでいます。

アタッチメント・ヨガで学んだ赤ちゃんと一緒に呼吸法を取り入れ、情操教育によいと言われる「童謡」の音楽に合わせて赤ちゃんと一緒にステップを踏みます。ママは日頃の運動不足が解消し、ストレス発散もでき、また、抱っこされている赤ちゃんにはママたちの晴れやかな気持ちが伝わり、いつのまにか心地よく眠ってしまいます。

運動の後は、参加者全員でリラックスしながら女性として輝けるための情報をいろんな分野からピックアップしてお話しします。また、専門知識をもつママのスピーチや、楽器が趣味のママ達のミニコンサートなども行い、参加するママ達の活躍の場としてもご利用いただいています。

0～2歳のアタッチメントの重要性を感じて頂く場として、今後もアタッチメント・ベビーマッサージやアタッチメント・ヨガの活動を続けていきたいと思っています。



遠藤 美紀 さま ベビーシッター・小学校でのボランティア活動（千葉県）

取得資格



「微力ながらもお母さんたちに安らぎを提供したいです。」

ベビーシッターや、小学校での英語活動の補佐、本の読み聞かせ等のボランティア活動で、日ごろから子どもたちと接する機会が多いことを活かし、地域のファミリーサポートセンターのご協力により、ベビーマッサージ教室を開催させていただきました。マッサージをするだけでなく、教室終了後に赤ちゃんを題材にした本を1冊読みました。お母さんたちに感想もいただき、来てよかったと思っていただけたことがとてもうれしかったです。最近、子どもたちの悲しいニュースが多く、お母さんたちも疲れている人が多いと感じています。普段の小学校でのボランティア活動も活かし、小学校の子どもたちとコミュニケーションを取りながら、微力ながらもお母さんたちに安らぎを提供し、社会のお手伝いが出来たらと思っています。

福成 美和 さま 保育士（東京都）

取得資格



「持っている知識を活かし、癒しの場として教室を展開していきたいです。」

保育園に預けて働いているお母さんは平日の教室に参加できないので、土曜日に、カフェのレンタルスペースや児童館をお借りして、働くお母さんの立場に立った教室を開いています。

現役で保育士をしているので、それを利用して子育て新システムのお話をしたり、育児相談にも乗っています。保育園の現実には不安を覚えているお母さんも多いようなので、保育園の話をよくしています。カフェで開催する際には、ベビーマッサージ教室の後においしいランチを食べながら、月齢の近い赤ちゃんのお母さん同士お話をし、息抜きをされています。ベビーマッサージの利点を感じていただくのはもちろんのこと、お母さん同士がなんでもないことをざっくばらんに話して疲れを取ってもらい、癒しの場として教室に通っていただきたいと思っています。

高橋 直美 さま 託児所勤務（秋田県）

取得資格



「赤ちゃんが産まれた幸せを感じ取っていただきながら、最高の愛着関係を作ってもらいたい」

普段は託児所に勤務しながら、ベビー＆キッズマッサージ教室＊ma-ma＊くらぶを運営しています。新聞広告や無料の子育て情報誌、ブログなども更新し、積極的に宣伝を行っています。ほかにも、保育園や保健センター、JA等でも教室を開催しました。口コミで広がり、声をかけていただきました。

教室では、リラックスしてもらうことが大事ですので、お母さんたちの性格を最初に見極め、それぞれ対応します。安心してもらい、心も開いてもらい、今ではマッサージ以外の相談のメールもくれるようになりました。おかげさまで、初めて参加の方は100%継続レッスンにいらしてくれています。

託児所では、愛着形成が不十分な子もいて、もっとお母さんに愛着関係について知ってほしい、伝えたい、そう思い活動をしております。せっかく赤ちゃんが産まれたのだから、その幸せを親子で感じ取っていただきながら、健全な親子関係を育む最高の愛着関係を作ってもらいたいと思います。



沢村 多恵子 さま 教育業 / 幼児教育の主催・企画運営（東京都）

取得資格



「お母さんたちが育児を楽しむための手助けになれる場所でありたいと頑張っています。」

次年度幼稚園に入園予定の3歳になるお子さんを対象に、完全預かり保育の教室を運営しています。幼稚園と保育園のいいところをミックスして、多岐にわたるレッスン内容を盛り込んでいます。子供同士で小集団を形成する中で社会性や協調性などを養いながら、体をコントロールする力をつけるためにアタッチメント・ジムの理論も取り入れた体育遊びや、制作遊びに取り組んだり、トイレトレーニングなど幼稚園入園までに身につけたい生活習慣についてもサポートしています。また、自己表現のひとつとして幼稚園面接に備える意味でも、自分の名前や年齢、お父さん・お母さんの名前など、聞かれたことにしっかり答えられるように、遊びの中で取り組んでいます。

毎日の子育てに疲れて、心の余裕がなくなるお母さんもうらっしゃいます。レッスンの間は少しでもお母さんがリフレッシュでき、レッスンを通して育児や成長を楽しむことに繋がれば…。その手助けに少しでもなれる場所でありたいと頑張っています。

活動報告大募集！

インストラクター及び育児セラピストの皆様は普段、様々な活動やイベントをされているかと思いますが、事務局及び協会関係者は、皆様の活動をすべて把握する術がございません。そこで、当協会ではインストラクターの皆様が活動されている現場の活動報告を募集しております。

お寄せいただいた活動報告の中で、共有したい事例をホームページや会報誌等でご紹介させていただければと存じます。活動の様子の共有を通して、より多くの方の今後の活動のきっかけにさせていただきたいと思っておりますので、是非ご協力をお願いいたします。



応募方法 郵送またはメールにてご応募ください。形式は自由です。

応募先 (社) 日本アタッチメント育児協会

郵送 : 〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 2-15-14 パックス金山ビル 4F

メール : info@naik.jp

2012 年のグループワークから生まれた活動

2012 年に開催した全国大会では、グループワークで、「未来に向けて、みんなで出来る何か」を、各グループで企画をしました。その中であるグループが、そのときに生まれた企画を実現させようと活動をされています。2 年計画ということですので、この全国大会では、中間発表という形でグループのリーダーである鈴木悦子さんに発表して頂きました。

彼女のグループは、『各自の職業を活かして情報収集をし、ベビーマッサージを通して、低出生体重児をもつ両親のサポートをする』という活動を企画しました。低出生体重児と悩んでいるお母さんのためにベビーマッサージ教室を行うことで、低出生体重児の成長発達を促し、また、お母さんも楽しく育児が出来るようになることを目指しケアをしていきたいと考えたのです。

彼女たちは、まず集まる日程を決め、企画実行のためのアクションプランを立てました。チームメンバーは、東北から関東の様々な地域で様々な職業をされているため、全員が集まることは簡単ではありません。しかし、少人数でも集まれる人で集まり、おいしいホテルのランチを食べながら交流を深め、活動内容について話し合いをされたそうです。たとえランチを食べるだけでも、楽しみをもって集まることに意味があります。集まること自体を楽しみとし、取り組まれている点が素晴らしいです。

この全国大会までで 4 回のミーティングを行い、少しずつでも前に進まれています。この全国大会の段階では、川口市の保健センターに申し入れし、川口市在住の低出生体重児を対象とした講座であれば可能という返事をもらい、開催実現の一手前までできているとのことでした。今後は、ベビーマッサージ講座の開催に向けて、情報収集やアンケート調査、分析、企画案の作成や、プレ講座の開催等を計画されているそうです。

全国大会で生まれた「つながり」がさらに何を生むのか、今後の皆さんのご活躍が、楽しみで仕方ありません。

(文責：今井 香保理)



川口市立 医療センター NICU 勤務 鈴木 悦子さん

振り返りのワーク

毎年恒例のグループワーク「未来へ向けて地域で取り組むグループワーク」を行いました。全国大会で得た新たな学びを踏まえて来年に向けて行いたいことについて地域のグループごとで話し合い、代表者が発表しました。30 分間という短い時間でしたが、昨年の鈴木悦子さんのグループのようにここでのワークや出会いがきっかけで始まるプロジェクトもあります。

一人一人から多様な意見が出て、まとめるのに苦労していたグループもありましたが、「被災地である東北でベビーマッサージ教室を行い、被災地支援をしたいグループ」や、「日本だけに留まらず、海外でアタッチメントを広める活動をしたいグループ」等、個性豊かなプロジェクトが生まれました。このワークをきっかけにアタッチメントの輪がさらに広がり、また来年も、実際に活動されたうれしいご報告が聞けることを楽しみにしております。

(文責：伊藤 瑛美)



活発に意見が飛び交う



実践への意気込みも発表

アタッチメント・ラーニング

attachment learning

大人の発達心理学 ライフサイクル・ファシリテーター養成講座 ～ 8つの段階と発達課題から読み解く、人生の歩き方～

(現：育児セラピスト・シニアマスター養成講座)



『大人の発達心理学 ライフサイクル・ファシリテーター養成講座』は、育児セラピストの最終段階として、子ども自身ではなく、その親である大人たちを導くための存在（ライフサイクル・ファシリテーター）としての知識とスキルを修得するための講座です。

本講座では、代表理事である廣島 大三みずからが登壇し、当協会認定トレーナーの方々をはじめ、子育てに悩む親に接する場を持つ方々が、親に接する時のために大人のことも知っておきたい、自分を見つめ直してそこから親たち大人を見つめ直したいという想いを持って参加されました。



「ライフサイクル」とは、人の一生を「乳児期、幼児期、児童期、学童期、青年期、前成人期、壮年期、老年期」の8つの段階に分類したもので、それぞれの段階には、その時期に達成しなくてはならない発達課題が設定されています。このライフサイクル理論によって、これまでの人生を振り返り、さらに、これからの人生にどのような発達段階が存在し、それをどう乗り越えていくべきかを学ぶことで、「人生を幸せに生きるコツ」を親や子どもたちに伝えることができるようになります。

また、ライフサイクル理論は、悩みを抱える親を救うためだけではなく、受講生自身の人生を振り返り、これからの人生の設計図を組み立てていくうえでの大きな助けとなったようです。特に、多くの受講生の方々がこれから迎える「壮年期（40歳から65歳）」や「老年期（65歳以上）」の部分に話題が及ぶと、受講生の方々の表情がいっそう引き締まり、真剣にメモを取られていた様子が印象的でした。

「アダルト・アタッチメント」では、成育環境の中で得られたアタッチメント・スタイル（愛着の傾向）が、その後の人格形成にどのように影響するかを研究したアダルト・アタッチメント研究からその人がどのようなアタッチメント・スタイルを持っているかを学びました。

さらに、人間成長の観点から、人がどのようにしてより高次の欲求を手に入れていくのかを学ぶ「自己実現理論」により、

人間がどのように成長していくかを学びました。

また、そうした学術背景だけではなく、それらを実際のカウンセリングやファシリテーションで活かす方法なども学びました。

このように、様々な角度から「人間の一生を通した発達」を学ぶことは、育児の専門家である育児セラピストの可能性を拓ける重要な学びとなります。また、このような学びは、人生の原理に触れる壮大なテーマでもあります。

すでに、悩みを持つ多くの親たちと関わってきた実績のある方々にも関わらず、本講座の重要性、必要性を感じて受講を決意され、長時間の講義にも関わらず、最後まで集中して参加された受講生の方々の熱意には圧倒されました。

私自身、まだ前成人期（20代から40代）の入り口に足を踏み入れたばかりですが、今回の講義を聴講し、人生の先輩である受講生の方々からいただいた刺激とパワーを糧に、発達課題に真摯に向き合っていかなければと決意しました。

そして、この講座を受講した方々には、私と同世代である若いお母さんたちに、この学びを伝えていっていただきたいと強く感じました。

最後に、この講座の締めくくりとして、代表理事から受講生の方々へ伝えられたメッセージを引用させていただきたいと思います。



“私自身、この「ライフサイクル」というフレームを仕事に、夫婦関係に、子育てに活用してきました。そのおかげで、私は自分のその時々課題に気づき乗り越えることで満足できる人生を歩むことができてきたと感じています。もちろんこの「ライフサイクル」は万能のツールでも、魔法の杖でもありません。しかし、知識として知っていることで、確実に人生を幸福に歩んでいく方向に近づくことは間違いありません。”

（文責：瀧沢 貴浩）

受講生の声

本日は、自分を振り返ることが改めてできました。貴重な経験であり、過去があり今がありこれでいいのだと思えました。そして今後の課題も見つけることが出来ました。ありがとうございました。

（大阪府 50代 歯科衛生士）

仕事で保護者の背景に気づけることや自分の過去を振り返ることをしたかったので受講しました。また、夫婦関係を見直すきっかけにもなりました。先生の講座は、とても楽しく、興味を持って受講できました。これからも心理学を知っていきたい、学びたいと感じられる授業でした。

（東京都 40代 保育士）

幼児期の大切さをなぜ大切なのかが、確信できたような気がします。もう一度、色々な参考文献を読みながら、頭の中を整理して、今後の活動に活かしていきたいと思います。

（大分県 50代 ピアノ講師）

この『大人の発達心理学 ライフサイクル・ファシリテーター養成講座』を2日間の講座としてさらに発展させて『育児セラピスト シニアマスター養成講座』として開講しています。詳細は当協会公式ホームページにてご案内しております。また、『育児セラピスト シニアマスター養成講座』に関するご質問等ございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



（社）日本アタッチメント育児協会 事務局

TEL：052-265-6526（平日9時～18時） Eメール：info@naik.jp

<http://www.naik.jp/>

ワンランク上のインストラクターになるための 3つの実践ワークショップ

「ワンランク上のインストラクターになるための「3つの実践ワークショップ」」を開催しました。

ワークショップは、今回が初めての試みでした。すでに、A B Mベビーマッサージインストラクター資格を持って活動されている皆様が、集まり学び、新しい一歩を踏み出しもらえるように、構成されています。



■ 対話読み聞かせ講座

1つ目は、アタッチメント・ベビーマッサージ教室にいらっしゃる赤ちゃんとお母さんに直接提供できるコンテンツとして、「対話読み聞かせ」講座を行いました。

絵本の読み聞かせが子どもの発達に良いのは皆さんご存じですが、読み聞かせを始めるよりもっと低年齢から、「対話読み聞かせ」は赤ちゃんとお母さんが一緒に取り組めるアタッチメントの営みです。

講座では、0歳から、お母さんと双方向の対話をするのが、いかに後の言語の発達や、コミュニケーションの力に直接影響を与えるかということを学びました。

一方的に見せられる映像や、触ると反応するITの絵本であっても、お互いの表情を見て、声を感じ取って、感情のやり取りをすることは出来ないとの説明に、多くの受講生が共感してくださいました。

講座では、インストラクターの方が、実際にご自身の教室で使える「対話読み聞かせ絵本」を用いて、具体的な対話読み聞かせ方法も学びました。また、すでに教室に取り入れていらっしゃるインストラクターからの実践例も共有しました。



■ アタッチメント・ベビーマッサージ総復習

2つ目は、アタッチメント・ベビーマッサージの総復習とベビーマッサージの最新アップデートの情報をお伝えしました。手わざの復習では、基本のおさらいだけでなく、実際にお母さんから出た質問等に、どのようにインストラクターが対応しているかを共有したり、様々な場でのベビーマッサージの応用についても学びました。



また、昨年夏に、アメリカフロリダ州のマイアミ大学内の「Touch Research Institute」で得た新しい情報もお伝えしました。最新の研究では、火傷を負った子に患部以外をマッサージすることで免疫力が向上し、傷の治りが早かったというレポートや、高齢者の方が赤ちゃんをマッサージすることでうつ傾向に改善があったなどの、興味深い研究を紹介しました。

■ 実践！教室運営

3つ目は、「実践！教室運営」のマーケティングについてです。

教室や活動を軌道に乗せるための心構えから、具体的な実践方法まで学びました。

ベビーマッサージ教室の運営は、ひとつの事業運営です。始める前に、事業の目的や覚悟をすることはとても重要です。講座では、自分がどんな働き方をしたいかを考え、そのために必要なマーケティングの基礎知識を学びました。

すでに教室を始めている方からは、失敗例や苦労話なども飛び出し、皆が勇気付けられました。また、「軌道に乗せるためには、3年続けましょう」とのお言葉に現在の充実感が伝わってきました。これから教室を始める方には、具体的なPR方法や教室の場の設定などのイメージが湧くことはもちろんですが、先輩方の活躍に力をもらい実際の第一歩を踏み出すきっかけにてもらえたようです。



(文責：桑山 美樹)

受講生の声

教室内で1つの企画として、アタッチメントにつなげていけるので、来年の教室から取り入れて、活動の幅を広げたいです。

(広島県 50代看護師)

対話読み聞かせの必要性をさらに感じました。「白黒赤絵本」を自分の地域に住む親子に渡すことを機に伝え、広めたいです。

(岐阜県 60代助産師)

自分のやり方になっていたベビーマッサージを学び直すことができたので、すぐにまた役立てていけそうです。これからママ達に自信を持っていただけるようお役に立てるよう頑張りたいと強く思いました。

(岐阜県 40代保育士)

実際に教室を運営してみて、つまずくことが多く、落ち込んでばかりでしたが、それは当たり前なんだ！と思え、これからに向けてやるべきことも明確になりました。

(宮城県 30代ベビーマッサージインストラクター)

自分自身、自信を持ってママさん達に伝えられるように、スキルアップしたいと思い参加しました。おかげで、自分のやり方で良かった！という再認識と、もっとこうしたらいい！という発見や、また運営していく段階での生の声が聞けて良かったです。

(秋田県 40代ベビーマッサージインストラクター)



この『ワンランク上のインストラクターになるための3つの実践ワークショップ』は、さらにコンテンツを充実させて『アタッチメント・ベビーマッサージ 教室運営力アップ講座』として全国で開催しております。詳細は当協会公式ホームページにてご案内しております。また、『アタッチメント・ベビーマッサージ 教室運営力アップ講座』に関するご質問等ございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



(社)日本アタッチメント育児協会 事務局

TEL: 052-265-6526(平日9時~18時) Eメール: info@naik.jp

http://www.naik.jp

～ 編集スタッフ あとがき ～

伊藤 瑛美

ランチパーティーや振り返りワークの記事を担当しました。記事を書いているときには、交流会でのにぎやかで楽しそうな声や、活発な意見交換の様子が思い出されてきて、全国大会の意義を改めて感じました。この報告書を読まれた皆様にもその様子が伝わればうれしく思います。私は直接インストラクターの皆さまにお会いする機会がなかなかなく、唯一お会いできるのが全国大会です。全国大会でお会いするといつも皆様の想いやパワーに圧倒されます。この強い想いがあってこそ、日々すばらしいで活躍をさせていらっしゃるのだなと改めて感じました。

梅原 礼子

今回、参加された方の感想を担当いたしました。全国大会当日は、2人目が生まれて間もなかったということもあり、会場には行くことが出来ませんでした。参加された皆さまのアンケートを拝見させていただいただけでも、皆さまの笑顔が目に見え、また当日の会場の熱気が伝わってきました。2014年の全国大会は、会場へお伺いさせて頂く予定でございますので、昨年の分まで、今から皆さまへお会いできるのを楽しみにしています。

今井 香保理

今回、「2013年 優秀実践発表会」と「2012年のグループワークから生まれた活動」を担当させていただきました。皆様の活動は本当にすばらしく、皆様に伝えなきゃ！という思いで言葉にしたら、最初はこの報告書に記載させていただいた内容の3倍ほどの内容になっておりました…。なんとか気持ちを抑え、今回の報告書の内容にまとめることができました。

また、報告書の作成にあたり、いつもメールや電話でのやりとりをしていたインストラクターの皆様と直接顔を合わせてお話しすることができるこの機会、今後も大切にしていきたいと改めて感じました。

瀧沢 貴浩

大人の発達心理学の記事を担当しました。私自身、大学を卒業して1年、これでやっと勉強から卒業できるという気持ちでしたが、みなさんが今なお真剣に学ばれている姿を拝見し、私も意識を変えなくてはと強く感じました。また、その姿は「人は一生涯、成長を続ける」という本講義のテーマに重なり、みなさんが学んだことを体現されながらたくさんの方へ伝えていくくださるんだなと感銘を受けました。当協会の受講生の方々は本当に意識の高い方々ばかりだと思います。今後も、そんなみなさんのご活躍を陰ながら支えていけるよう、スタッフとして、また、ひとりの大人として学び、成長を続けなければと感じました。

日本アタッチメント育児協会 公式ブック

全国の書店・amazon.jpにて発売中！



アタッチメント・ベビーマッサージ

～感性豊かで幸せな子どもに育つ～

廣島 大三（著）/ 寺下 謙三（監修）/ 保健同人社（出版）

標準価格：1,200円（税別）

赤ちゃんが生まれたら、ベビーマッサージを始めてみたい、と思っているお母さんは少なくありません。ベビーマッサージはオイルを使って、お母さんの手で赤ちゃんにマッサージをすることですが、大切なのは、お母さんと赤ちゃんの絆をしっかりと結ぶことです。本書では、発達心理学の観点から、お母さんと赤ちゃんのアタッチメント（愛着関係）をしっかりと作り、情緒豊かな「幸せな子ども」に育てるためのベビーマッサージを紹介します。



6歳までのアタッチメント育児

子どもを伸ばす 愛情の表し方・与え方8つのメソッド

廣島 大三（著）/ 合同出版（出版）

標準価格：1,400円（税別）

親子の「アタッチメント（＝愛着関係）」を育めば、子どもをもっと愛せる、子どもはもっとHappy！になる。親が親として成長し、ストレスがやりがいに変わる！心やさしく、知的好奇心にあふれた、頭の良い子どもが育つ！アタッチメント育児にLet'sトライ！アタッチメント理論の基本概念から、親子の日常での営みの中でアタッチメントを育む具体的なメソッドまで。

(社)日本アタッチメント育児協会

認定養成校のご紹介



(社)日本アタッチメント育児協会は、大学をはじめとする教育機関を「認定養成校」として認定し、大学カリキュラムとして講座コンテンツを提供し、各学内において、アタッチメント・ベビーマッサージ、アタッチメント・ヨガをはじめとする各種インストラクターや、育児セラピストの養成を行っています。

現在は、淑徳大学短期大学部 こども学科と、宝塚大学 看護学部助産学専攻科の2校が認定養成校になっており、それぞれの大学の学生は、卒業時(指定単位取得の上)に、保育士資格や助産師資格と併せて、アタッチメント・ベビーマッサージ、アタッチメント・ヨガ インストラクター資格や育児セラピスト1級資格を取得します。

淑徳大学短期大学部 こども学科

導入資格

「アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター」
「育児セラピスト1級」

保育士、幼稚園教諭を養成する子ども学科にて導入。カリキュラムにおいては、半期3カ月の「育児学」を、2単位の選択必修科目として新たに設定し、両資格の専門コンテンツを教授します。

そして「育児学」を含む、指定科目の単位を修得した学生は、卒業時に保育士資格と共に、当協会認定の上記資格を取得します。

宝塚大学 看護学部助産学専攻科

導入資格

「アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター」
「アタッチメント・ヨガ インストラクター」
「育児セラピスト2級」

同大学 看護学部にて平成26年4月に新たに開設された助産学専攻科で導入。カリキュラムには、「アタッチメント・ベビーマッサージ」と「アタッチメント・ヨガ」を各2単位、計4単位の選択科目として新たに追加しています。これらの単位を修得した学生は、卒業時に助産師資格と共に、当協会認定の上記資格を取得します。

大学での認定養成校は、卒業する学生の就職に、有利な資格を与える機会を作るだけでなく、大学として、より現場に貢献できる学生を、社会に送り出すことにもつながっており、さらに、そうした資格が学内のカリキュラムで取得できる大学として、入学希望者の増加にもつながっています。

当協会は、今後も教育機関と連携を取り、こうした養成校の認定を、他の地方でも進める所存です。



淑徳大学短期大学部は、人を支えたい、社会を支えたいと願う
あなたのための学びの場です。

人の幸せとは何か、より良い社会とは何かを考え、
人と社会を支える力を身につけていきます。

自らを磨き、学び続ける姿勢。

幅広く社会を考えることもできる視野の広さ。

そして他人を思いやれる心。

この3つの力が、あなたと未来をつなぐ絆になります。

「ABMアタッチメント・ベビー・マッサージインストラクター」「育児セラピスト」(社)日本アタッチメント育児協会認定養成校



淑徳大学短期大学部
Shukutoku University Junior College

- こども学科 (保育士、幼稚園教諭養成)
- 健康福祉学科
 - 社会福祉コース (社会福祉士、介護職員初任者研修養成)
 - 介護福祉コース (介護福祉士養成)
 - 医療事務・秘書コース (医療事務従事者養成)



Information

〒174-0063 東京都板橋区前野町 2-29-3 Tel 03-3966-7637 (東京アドミッションセンター) <http://www.jc.shukutoku.ac.jp/>

「心」と「からだ」にひびく、癒しの看護



宝塚大学

看護学部

助産学専攻科 平成26年4月開設

本専攻科は(社)日本アタッチメント育児協会より養成校としての認定を受けています。

クリック!

宝塚大学 検索



☎ 0120-580-007

〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目13番16号

<http://www.takara-univ.ac.jp/kango/>





監修・発行：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

URL : <http://www.naik.jp> E-mail : info@naik.jp

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 2-15-14 パックス金山 4F

TEL : 052-265-6526 FAX : 052-265-6529